

一 全社横断プロジェクト

ヤクルト子ども食堂プロジェクト2

活動テーマ

「共助社会の担い手になる」というビジョンのもと、地域社会の課題解決の取り組みとして、2021年度より子ども食堂「GENKI★食堂」を運営しています。2024年度はヤクルト子ども食堂プロジェクト2を結成し、子ども食堂「GENKI★食堂」のさらなる可能性を検証していきます！



プロジェクトの目的

「共助社会の担い手」として地域社会の課題解決に取り組む

1. 子どもの居場所づくり
2. 子育て世代の居場所づくり
3. 地域との繋がり

検証項目

テーマ：あたたかい「つながり」を広げよう

1. 渋川エリアにて「GENKI★食堂」の実施検証
2. 地域団体と連携した取り組み
3. 地域の繋がりへの拡大を図る

渋川GENKI★食堂 グランドオープン

渋川サービスセンター・キッズルームにて「子育て世代の繋がり場をつくることで、社会課題である親の孤立の解消を目指すこと」を目的に、渋川GENKI★食堂がグランドオープンしました。渋川GENKI★食堂は管理栄養士監修の食事提供の他、保育士がお子さんをしっかりお預かりすることで、子育て世代のお母さん同士の繋がり場、お母さんが笑顔になれる場として活動していきます。

◆ 実施回数

4回

◆ 参加人数・参加世帯

88名 44世帯



地域団体と連携した取り組み

◆ 夏休み まいにちこども食堂

共働き世帯の増加に伴い、給食の無い夏休みの子どもたちの孤食の防止、憩いの場の提供、親御さんの負担の軽減を目的に、子どもたちにお昼ご飯を提供する「まいにちこども食堂」を実施しました。

子どもの自活能力を高めるために参加型子ども食堂も開催し、子どもたちが自ら調理を学びました。この経験を通じて、作る楽しみや喜びを子どもたちに体験してもらうことができました。



◆ 第2回こども食堂フェスタ～まえばし～

11月2日にこども食堂フェスタ～まえばし～を開催しました。目的は前橋市内の子ども食堂の周知、企業と子ども食堂とのマッチング、子ども食堂間の交流の場です。当日は子ども向けのイベントの他、子育て食育をテーマにしたパネルディスカッションも行われ、多くの親子に参加いただきました。



地域との繋がり拡大

地域のコミュニティが希薄になっている現在、地域の課題(担い手不足・世代間交流)解決、地域の活性化を図るために、地域団体と連携を図り、さまざまな活動を行いました。

◆ 平成大橋子ども食堂GENKI★食堂

今年で4年目を迎え、「子どもの居場所づくり」「子育て世代のコミュニティ」「地域の繋がり」の場として運営しています。地元の大学の学生ボランティアや中核病院の職員ボランティアにも参加してもらい地域の繋がり拡大を図っています。



◆ 地域イベントの共助活動

社会的課題のひとつ「地域の担い手不足」の解消のため、そして地域住民との繋がりを構築するために地域の自治会と協力し共助活動を実施しました。



ー 全社横断プロジェクト

スクール連携プロジェクト Season3

活動テーマ

～学校運営協議会委員として～

学校と地域をつなぐ「健康コーディネーター」を目指して2つの取り組みを実施

● 新町中学校

生徒・教職員の「学校健康づくり」の実践

● 地域

新町中学校を基点とした「地域健康づくり」モデル策定



プロジェクトの目的

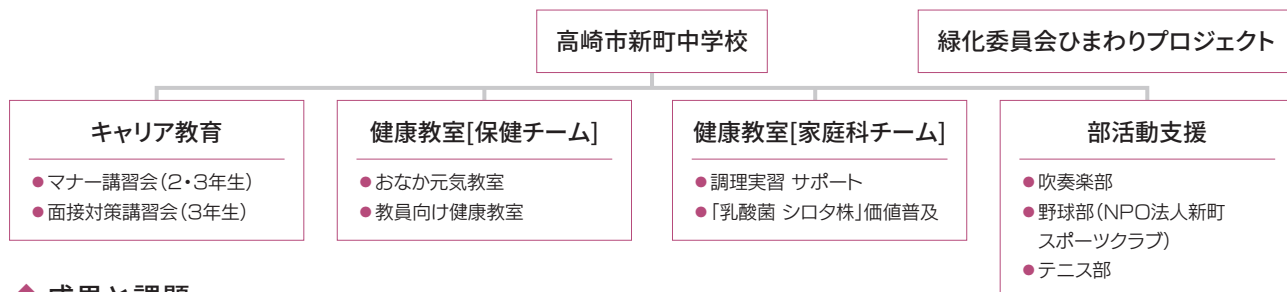
共助社会の担い手になる

【教育機関を基点とした新たなつながりづくり】

活動目標

高崎市立新町中学校でのさまざまな活動事例を他の教育機関へ紹介する「提案書」を作り上げる

プロジェクト活動推移



◆ 成果と課題



2024年度 学校運営協議会メンバー就任

今期プロジェクトの取り組み内容

1. 健康教育 実践 **新規**

→担当教員と協働で「保健・体育」授業実施
* 1年生の健康増進取り組み 実施

2. 学校健康経営 実践 **新規**

→当社+管理職(教頭・教務)+教職員
* 健康経営チーム活動*教職員の健康取り組み 実施

3. 学校運営協議会委員と協働活動 **新規**

→地域へ健康取り組み実施(健康教室、運動支援 等)
→新町地域と連携(イベント、企業連携 等)

4. キャリア教育支援 **継続**

→マナー講習会、面接対策講習会など継続支援

5. 部活動支援 **継続**

→吹奏楽部へ継続的な支援による生徒育成及び健康づくり

今期実施検証した取り組み

◆ 健康教育

対象 1年生75名 「食生活と健康について」 2回実施

目的 自分の生活を振り返りながら「食事を摂る上で大切なこと」「朝食の重要性」を知り、健康的な生活習慣を身に付ける



◆ 学校健康経営

- 教職員対象「健康経営」研修会 ● 健康課題解決実践「生活習慣改善プログラム」
- 教職員向け健康教室 テーマ「動脈硬化」 ● 血管年齢測定器イベント



◆ 学校運営協議会委員活動

- ひまわりプロジェクト ● ボランティア部活動支援(吹奏楽部)
- キャリア教育支援 ● 新町地域イベント出展



新町中学校では、高崎市と包括連携協定を結ぶ群馬ヤクルト販売株式会社様と、令和3年度よりご支援・ご協力いただいているキャリア教育や健康教育、また、部活動支援やひまわりプロジェクトなど、民間企業の力と学校教育とで連携・協働し、大きな成果を上げてきました。令和6年度は、群馬ヤクルト様を学校運営協議会(コミュニティ・スクール)のメンバーにお迎えし、引き続きのご支援・ご協力に加え、令和3年度より構想していた学校現場としては目新しい取り組みである「学校健康経営プロジェクト」を企画・実施することができました。先生方の心と身体の健康こそが教育の基盤であり、さまざまな面で生産性を高めるだろうと考えたからです。長期休業の2回、管理栄養士さんによる学びの場を設け、職員全体では主に睡眠をテーマにすすめました。教員志願者数が減少している昨今、学校現場で働く先生方が心身ともに健康に働けることも学校経営の大切な1つであると考えております。



高崎市立新町中学校
教頭
北爪 稔 様

このたびの健康教育では、群馬ヤクルト販売株式会社の皆さまに授業を行っていただきましたことに、心より感謝申し上げます。教科書の中では学べない実践的な情報や、より具体的で深い知識を提供していただきました。特に「朝食の重要性」、「睡眠の重要性」については生徒たちのアンケートの内容を参考に、実態に応じた内容で授業を展開していただいたことで、生徒たちがとても真剣に聞く様子が見られました。また、2回にわたる学習を通して、短期的な学びに止まらず、生徒たちが継続的に健康について意識し、日常の中で実践しようとする姿を見ることができたことも大きな成果でした。私自身も専門的な視点からの学びを深めることができ、今後の授業に取り入れたいと思う貴重な機会となりました。

学校の中だけでは難しい、新しい発見があったことで、子どもたちの視野も広がり、健康についてより深く考えるきっかけとなったと思います。これからもこうした学びを大切にしながら、生徒たちが主体的に健康を意識し、行動できるような教育を進めていきたいと感じています。

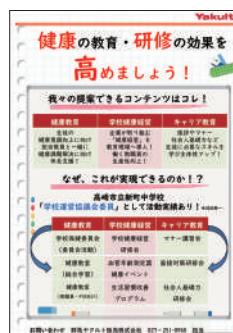


高崎市立新町中学校
教員
栗原 凜 様

今後の活動

◆ 群馬ヤクルト版スクール連携モデル

高崎市立新町中学をフィールドに取り組んできた事例を「提案書」として他の教育機関へご紹介する



ー 全社横断プロジェクト

DXプラットフォームプロジェクト

活動テーマ

DXプラットフォームプロジェクトでは、データドリブン経営の推進を図り、kintoneを活用した売上・業務データの一元管理を進めます。また、業務の標準化と効率化を目的に、マニュアルの更新やオンライン化を推進し、属人化を解消します。さらに、ITリテラシー研修を通じた社内コミュニケーションの強化や、Instagram・インフルエンサーを活用したデジタルマーケティングを展開。全社的なDX推進を進め、業務の効率化と事業成長を目指します。



プロジェクトの目的

1. 社内コミュニケーションの促進
2. 社会・地域への発信力の向上
3. デジタル技術を活用した「つながり」の強化

行動指針

立場や前例にとらわれず議論し、固定概念を打破していく

DXプラットフォームの実現は「情報の収集」と「情報の活用」

◆ 社内情報共有 プラットフォーム

- | | | |
|----------------|---------------|----------------|
| kintone | Garoon | S.T.E.P |
| ● アプリの運用 | ● スケジュール | ● 人事評価 |
| ● 社内申請 | ● メール | ● EXサーベイ |
| ● 相談カード | ● メッセージ | ● 組織図 等 |
| ● 事故報告 | ● 掲示板 | |
| | ● 稟議 等 | |

◆ 情報提供 プラットフォーム

- | オフ・ライン | オン・ライン |
|-------------|---------------|
| ● チラシ(YS) | ● Instagram |
| ● 新聞 | ● X(旧Twitter) |
| ● ラジオ | |
| ● テレビ | |
| ● 広告(折込) | |
| ● デジタルサイネージ | |

コミュニケーションについての課題

社内

1. 部門内の事例共有が掲示板に限定されている
2. 部門間で共通の取引先情報が共有されていない
3. Garoon内のスケジュール管理に手間がかかる
4. 情報の閲覧が少なく届いていない場合がある
5. ツールの運用・活用のばらつき

社外

1. 投稿に統一感がなく、部門ごとの重複や相手任せな発信が目立つ
2. 情報が多く、生活者へ届かない
3. 告知や商品紹介は可能だが、情報発信が一方向的で双方向のコミュニケーションが不足している

プロジェクトの達成に向けた戦略

課題解決に向けて今回より「社内DXチーム」と「社外DXチーム」の2チーム制を導入しました。

社内DXチーム

- 業務プロセスの効率化
- データ活用による迅速な意思決定の実現
- 社内コミュニケーションの強化
- 業務のスピードアップや精度向上
- 社員一人ひとりの生産性を最大化する
- コスト削減

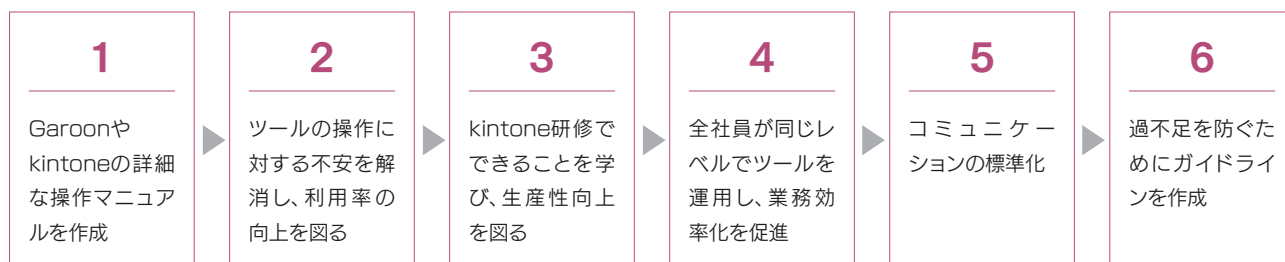
社外DXチーム

- 顧客との接点やサービス提供のデジタル化
- 顧客体験の向上
- ビジネスモデルの変革
- 新規顧客の獲得
- 顧客データを一元管理とパーソナライズされたサービスを提供

会社データ

アクションプランの作成

◆ Garoonとkintone 運用の改善



◆ kintone活用

直販売上データ管理システム	
システム活用のねらい	●各ルート社員が適切に取引先の状況や課題を把握 ●取引先ごとの販売データをkintone上でリアルタイムに確認できる環境を整え、迅速な提案・改善を実現 ●販売機会の損失を防ぎ、取引先との信頼関係も強化
目標	●ルート担当者が売上目標を下回っている取引先をデータ分析し、提案・改善活動を強化

◆ SNSを活用した化粧品新規顧客の創造

InstagramやFacebook、X（旧Twitter）などのSNSプラットフォームを活用し、ターゲット市場に対して定期的なSNSキャンペーンを実施。



部門紹介

ー 全社横断プロジェクト

健康経営さくらMINTプロジェクト

活動テーマ

昨年より女性の健康と仕事の両立を考える「さくらMINTプロジェクト」が立ち上がりましたが、女性の健康課題は全社として取り組む必要があると考え今年度は、健康経営プロジェクトと合体して、男女区別なく全社の健康課題として解決に取り組んでいます。

「健康経営」とは？

従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践すること。



プロジェクトの目的

女性従事者が、それぞれのライフステージで抱える悩みや課題を抽出し、仕事を続けられる環境を作っていく。

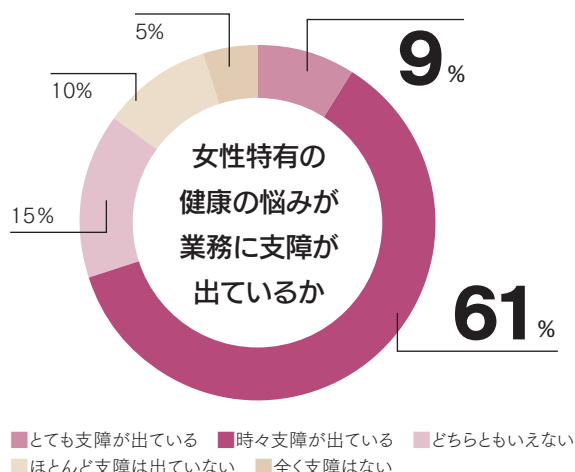
プロジェクトの課題

1. 従事者の「血圧」と「睡眠」が良好ではないこと
2. 「健康経営」の全社的普及が出来ていないこと（認知度が低い）
3. 女性の健康と仕事が両立できる仕組みづくりが不十分

プロジェクトの目標・実践内容

「血圧と睡眠の健康スコアリングを向上」「健康経営の認知度の向上」さらに、「女性の健康への理解向上」に向けた具体的取り組みを実施します。「健康経営」そのものの目的・意味に従事者全体に広げていくとともに、課題解決を通して、従事者全員が心身ともに健康に働くことができる風土を作ります。また、健康経営優良法人ブライツ500の継続取得を目指し、全社的な活動に取り組みます。

女性従事者を対象とした健康に関するアンケート結果



◆「女性特有の悩み」で業務に支障が出ている人の割合

回答全体の **70%**
※2023年度調査

特に「生理痛」「PMS（月経前症候群）」「更年期障害」の悩みを抱えていました。この結果について、今年度は男性社員のメンバーとも意見交換を行い、実行策を検討しました。

女性の健康についての勉強会を企画・実施

今年度は、女性ホルモンについて当事者も、一緒に働く周りも理解を深め、お互いに思いやれるようになること、そして各自でも少しでも工夫をし、改善ができるようになることを目指し、まずは勉強会を開催しました。

目的 女性ホルモンについて学ぶことで、自分自身や周囲の健康状態や不調、身体の変化について理解を深める

対象 女性従事者＋周囲で共に活動する社員

方法 音声付きスライド動画の視聴(プロジェクトで作成)グループワーク

期間 10月～12月 (センターは10月～11月)

時間 約30分(グループワーク含む)

勉強会の内容

1. 健康経営さくらMINTプロジェクトとは
2. アンケート結果報告
3. 女性ホルモンのバランスは乱れやすい
4. ホルモンバランスが乱れる理由
5. ホルモンバランスの改善方法
6. グループワーク「わたしの健康法」
7. 早期受診のすすめ
8. やってみよう!ホルモン改善体操
9. アンケートのご案内

◆ グループワーク内で共有した仲間の声

不調の時の対処法として、よく笑いよく泣く、仲間に甘える、など多数ありました。

◆ 実施後の声

9割以上の方から共感を得られ、特にホルモン改善体操は好評でした。



定期的に行ってほしい



家族にも共有したい

産婦人科館出張 佐藤病院 佐藤雄一 院長による講演会開催

高崎市の産婦人科館出張 佐藤病院 佐藤雄一 院長に「男性にも知って欲しい女性特有の健康課題」というテーマでご講演をいただきました。佐藤雄一院長は12代目で、妊娠出産にまつわる女性のケアだけでなく、「女性の生涯にわたる治療」をモットーに幅広くご活躍をされている方です。



◆ 実施後のアンケート

満足度 **93%**

男性社員にも関心をもっていただけたことが大きな成果でした。

◆ 男性社員の声



女性の健康について、講話を聴くのは初めてだった。聞いてみて、とても勉強になったし、周りの女性に対して、今よりもっと配慮しようと思うきっかけになった。